

# WHO ファクトシート

## 若者の暴力

### Youth violence

2016年9月

#### 重要な事実

- ・世界では10～29歳の若者の間での殺人事件が毎年約20万件発生しており、これは世界の全殺人事件の43%を占める。
- ・殺人事件は、10～29歳の人々にとって死因の第4位であり、これらの殺人事件の83%では男性が犠牲者となっている。
- ・若者1名が殺害されるごとに、他に多くの若者が病院での治療が必要な傷害を負っている。
- ・ある研究によれば、女性の3～24%の最初の性体験は強要されたものと報告されている。
- ・それが死亡に至るものでなくとも、若者の暴力は、個人の身体的、心理的、社会的な機能に対して深刻でしばしば生涯消えないほどの影響を与える。
- ・若者の暴力は、健康、福祉、刑事司法関連サービスのコストを上昇させ、生産性を低下させ、資産価値の低下をもたらす。

© World Health Organization

この文章は、日本WHO協会がWHOのメディアセンターより発信されているファクトシートのキーファクト部分について、2014年3月にWHO本部より付与された翻訳権に基づき作成したものです。

ファクトシートには、訳出部分以外にも当該案件に関する基本的情報や詳細情報へのリンク先などが示されていますし、また最新事情に合わせて頻繁に見直しが行われますので、更新日時の確認を含めWHOホームページでの原文をご確認ください。

Youth violence      ファクトシート原文は [こちら](#)